

# 平成29年三重県議会定例会 予算決算常任委員会

## 病院事業庁長補充説明資料

	頁
1 平成28年度 病院事業決算の概況	
(1) 収益的収支	
① 病院事業庁全体の収益的収支	1
② こころの医療センターの収益的収支	2
③ 一志病院の収益的収支	3
④ 志摩病院の収益的収支	4
⑤ 病院別の収益的収支	6
⑥ 患者数の状況	7
(2) 資本的収支	8
(3) 一般会計繰入金	9
(4) 貸借対照表	10
<b>【報告】</b>	
私債権の放棄について	12
<b>【参考】</b>	
債権処理計画（平成28年度実績・平成29年度目標）について	13

平成29年10月2日  
病院事業庁



# 1 平成28年度 病院事業決算の概況

## (1) 収益的収支

### ① 病院事業庁全体の収益的収支

平成28年度は、こころの医療センターにおいては、県内の精神科医療の中核病院としての取組など、一志病院においては、総合診療医（家庭医）を中心としたプライマリ・ケアの取組など、それぞれの役割やニーズに応じた病院運営を行うとともに、経営の健全化に取り組んできました。また、志摩病院においては、指定管理者である公益社団法人地域医療振興協会により、診療体制の回復を図りながら、志摩地域の中核病院としての取組を進めました。

平成28年度の病院事業の決算は、「ア 経常収益」については、主にその他医業収益や一般会計繰入金の増加などにより、前年度比1.4%増の55億420万5,494円となりました。

「イ 経常費用」については、主に給与費及び経費の増加や減価償却費の減少により、前年度比0.7%増の53億9,243万1,766円となりました。

これらの結果、経常損益は、1億1,177万3,728円の黒字となりました。

【表1】病院事業庁の決算状況（収益的収支）

（単位：円）

	平成27年度決算	平成28年度決算	増減(H28-H27)	増減率
①病院事業収益 A+B+C	5,468,293,263	5,504,205,494	35,912,231	0.7
医業収益 A	2,807,920,743	2,847,205,417	39,284,674	1.4
入院収益	2,189,173,598	2,183,082,949	△6,090,649	△0.3
外来収益	512,889,019	520,923,216	8,034,197	1.6
その他医業収益	105,858,126	143,199,252	37,341,126	35.3
医業外収益 B	2,617,951,262	2,657,000,077	39,048,815	1.5
うち長期前受金戻入	253,306,514	242,551,272	△10,755,242	△4.2
うち繰入金	2,088,179,000	2,128,403,000	40,224,000	1.9
ア 経常収益 A+B	5,425,872,005	5,504,205,494	78,333,489	1.4
特別利益 C	42,421,258	0	△42,421,258	皆減
②病院事業費用 D+E+F	5,393,348,791	5,392,431,766	△917,025	0.0
医業費用 D	5,086,775,113	5,132,405,934	45,630,821	0.9
うち給与費	2,699,268,391	2,740,808,481	41,540,090	1.5
うち材料費	246,645,304	254,252,480	7,607,176	3.1
うち経費	1,504,425,245	1,537,299,305	32,874,060	2.2
うち減価償却費	611,433,754	568,699,361	△42,734,393	△7.0
うち資産減耗費	12,586,423	20,192,517	7,606,094	60.4
医業外費用 E	266,903,678	260,025,832	△6,877,846	△2.6
イ 経常費用 D+E	5,353,678,791	5,392,431,766	38,752,975	0.7
特別損失 F	39,670,000	0	△39,670,000	皆減
経常損益 アーイ	72,193,214	111,773,728	39,580,514	54.8
純損益 ①-②	74,944,472	111,773,728	36,829,256	49.1

【参考】累積欠損金の推移

（単位：円）

	平成27年度決算	平成28年度決算
累積欠損金	△9,307,879,549	△9,196,105,821

## ② こころの医療センターの収益的収支

こころの医療センターの決算は、「ア 経常収益」については、入院診療単価や外来患者数の減により医業収益が減少したことなどから、前年度比1.2%減の32億2,311万8,133円となりました。

一方、「イ 経常費用」については、退職給付金の増により給与費が増加したものの、減価償却費が減少したことなどから、前年度比0.5%減の31億9,742万9,335円となりました。

これらの結果、経常損益は、2,568万8,798円の黒字となりました。

【表2】こころの医療センターの決算状況（収益的収支）

（単位：円）

	平成27年度決算	平成28年度決算	増減(H28-H27)	増減率
①病院事業収益 A+B+C	3,283,639,353	3,223,118,133	△60,521,220	△1.8
医業収益 A	2,240,108,693	2,209,409,164	△30,699,529	△1.4
入院収益	1,849,967,883	1,825,545,866	△24,422,017	△1.3
外来収益	364,821,018	360,052,113	△4,768,905	△1.3
その他医業収益	25,319,792	23,811,185	△1,508,607	△6.0
医業外収益 B	1,022,151,117	1,013,708,969	△8,442,148	△0.8
うち長期前受金戻入	110,255,065	89,295,141	△20,959,924	△19.0
うち繰入金	888,601,000	897,202,000	8,601,000	1.0
ア 経常収益 A+B	3,262,259,810	3,223,118,133	△39,141,677	△1.2
特別利益 C	21,379,543	0	△21,379,543	皆減
②病院事業費用 D+E+F	3,232,274,356	3,197,429,335	△34,845,021	△1.1
医業費用 D	3,055,682,274	3,041,823,208	△13,859,066	△0.5
うち給与費	2,074,308,829	2,113,610,881	39,302,052	1.9
うち材料費	186,652,970	193,187,441	6,534,471	3.5
うち経費	553,320,868	543,809,128	△9,511,740	△1.7
うち減価償却費	229,835,392	176,668,550	△53,166,842	△23.1
うち資産減耗費	1,752,148	5,711,329	3,959,181	226.0
医業外費用 E	156,572,082	155,606,127	△965,955	△0.6
イ 経常費用 D+E	3,212,254,356	3,197,429,335	△14,825,021	△0.5
特別損失 F	20,020,000	0	△20,020,000	皆減
経常損益 アーイ	50,005,454	25,688,798	△24,316,656	△48.6
純損益 ①-②	51,364,997	25,688,798	△25,676,199	△50.0

### ③ 一志病院の収益的収支

一志病院の決算は、「ア 経常収益」については、入院収益や外来収益の増加に加え、津市からの受託料等の増により医業収益が増加したことなどから、前年度比7.9%増の9億7,094万3,857円となりました。

一方、「イ 経常費用」については、医事業務に係る委託費の増による経費の増加などにより、前年度比1.1%増の8億8,264万8,024円となりました。

これらの結果、経常損益は、8,829万5,833円の黒字となりました。

【表3】一志病院の決算状況（収益的収支）

（単位：円）

	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	増減 (H28-H27)	増減率
①病院事業収益 A+B+C	900,466,034	970,943,857	70,477,823	7.8
医業収益 A	557,084,466	627,058,868	69,974,402	12.6
入院収益	339,205,715	357,537,083	18,331,368	5.4
外来収益	148,068,001	160,871,103	12,803,102	8.6
その他医業収益	69,810,750	108,650,682	38,839,932	55.6
医業外収益 B	343,172,648	343,884,989	712,341	0.2
うち長期前受金戻入	12,743,101	12,780,186	37,085	0.3
うち繰入金	328,602,000	328,851,000	249,000	0.1
ア 経常収益 A+B	900,257,114	970,943,857	70,686,743	7.9
特別利益 C	208,920	0	△208,920	皆減
②病院事業費用 D+E+F	873,199,966	882,648,024	9,448,058	1.1
医業費用 D	852,537,704	862,391,829	9,854,125	1.2
うち給与費	530,213,571	530,479,913	266,342	0.1
うち材料費	59,992,334	61,065,039	1,072,705	1.8
うち経費	197,764,406	206,516,750	8,752,344	4.4
うち減価償却費	59,165,579	61,185,697	2,020,118	3.4
うち資産減耗費	3,413,035	1,327,279	△2,085,756	△61.1
医業外費用 E	20,273,262	20,256,195	△17,067	△0.1
イ 経常費用 D+E	872,810,966	882,648,024	9,837,058	1.1
特別損失 F	389,000	0	△389,000	皆減
経常損益 アーイ	27,446,148	88,295,833	60,849,685	221.7
純損益 ①-②	27,266,068	88,295,833	61,029,765	223.8

#### ④ 志摩病院の収益的収支

志摩病院については、平成24年度から指定管理者制度を導入しており、病院事業会計における志摩病院の決算においては、収益面では入院及び外来収益などは含んでおらず、主に指定管理者への交付金等の財源となる一般会計からの繰入金等を計上しています。また、費用面では病院の直接的な運営経費の給与費や材料費などは含んでおらず、指定管理者への交付金や病院の施設・設備、医療機器等にかかる減価償却費等を計上しています。

「ア 経常収益」については、指定管理者に交付する経営基盤強化交付金の追加交付額（前年度精算分）の増に伴う一般会計からの繰入金の増加等により、前年度比3.9%増の12億487万8,838円となりました。

一方、「イ 経常費用」についても、指定管理者に交付する経営基盤強化交付金等が増加したことから、前年度比3.6%増の12億708万9,741円となりました。

これらの結果、県の志摩病院会計における経常損益は、221万903円の赤字となりました。

【表4】志摩病院（県会計）の決算状況（収益的収支）

（単位：円）

	平成27年度決算	平成28年度決算	増減(H28-H27)	増減率
①病院事業収益 A+B+C	1,180,597,279	1,204,878,838	24,281,559	2.1
医業収益 A	10,727,584	10,737,385	9,801	0.1
その他医業収益	10,727,584	10,737,385	9,801	0.1
医業外収益 B	1,149,036,900	1,194,141,453	45,104,553	3.9
うち長期前受金戻入	129,607,338	139,789,591	10,182,253	7.9
うち繰入金	770,880,000	798,066,000	27,186,000	3.5
ア 経常収益 A+B	1,159,764,484	1,204,878,838	45,114,354	3.9
特別利益 C	20,832,795	0	△20,832,795	皆減
②病院事業費用 D+E+F	1,184,283,872	1,207,089,741	22,805,869	1.9
医業費用 D	1,075,810,453	1,123,667,000	47,856,547	4.4
うち給与費	0	0	0	—
うち材料費	0	0	0	—
うち経費	747,737,034	781,345,556	33,608,522	4.5
うち減価償却費	320,652,179	329,191,855	8,539,676	2.7
うち資産減耗費	7,421,240	13,129,589	5,708,349	76.9
医業外費用 E	89,212,419	83,422,741	△5,789,678	△6.5
イ 経常費用 D+E	1,165,022,872	1,207,089,741	42,066,869	3.6
特別損失 F	19,261,000	0	△19,261,000	皆減
経常損益 アーイ	△5,258,388	△2,210,903	3,047,485	—
純損益 ①-②	△3,686,593	△2,210,903	1,475,690	—

なお、「県の志摩病院会計の決算額」と、志摩病院の運営に伴う医業収益や経費等を計上している「指定管理者の志摩病院会計の決算額」を合計すると、下表のとおりとなります。

収入については、地域包括ケア病棟の拡充に伴う入院患者数の増や、24時間365日の内科系の救急患者の受入開始に伴う救急患者数の増により増加となりました。

一方、支出についても、給与費及び委託費等の経費の増などにより、増加となりました。

これらの結果、経常収支は2億3,000万円の赤字となりましたが、前年度と比較し、1億1,600万円の改善が図られています。

【参考】志摩病院の経営状況について（対前年度収支比較）※主な項目のみ

（単位：百万円）

主な項目		平成27年度 決算	平成28年度 決算	増減 (H28-H27)	増減率	主な内訳等
収入	入院収益	2,125	2,393	268	12.6%	
	外来収益	871	894	23	2.6%	
	負担金等	552	547	△5	△0.9%	政策的医療交付金 486 建設改良に要する 繰入金(利息分) 33
	長期前受金戻入	130	140	10	7.7%	
①経常収入 計		3,779	4,076	297	7.9%	
②特別利益		21	0	△21	皆減	
支出	給与費	2,150	2,262	112	5.2%	
	材料費	635	663	28	4.4%	
	経費	831	868	37	4.5%	委託費 512 光熱水費 119 修繕費 24
	減価償却費	392	401	9	2.3%	
③経常支出 計		4,124	4,306	182	4.4%	
④特別損失		19	0	△19	皆減	
経常収支 ①-③		△346	△230	116	—	
総収支 (①+②)-(③+④)		△344	△230	114	—	

備考

- 1 県会計の決算額と指定管理者の決算額の合計額(参考値)です。
- 2 県からの指定管理者への赤字補てんである経営基盤強化交付金を含めずに算出しています。
- 3 百万円未満四捨五入のため、合計や差額が合わない場合があります。

## ⑤ 病院別の収益的収支

平成28年度の収益的収支を病院別にまとめると下表のとおりです。

【表5】病院別 収益的収支

(単位：百万円)

	こころの医療 センター	一志病院	志摩病院	県立病院課	合計
①病院事業収益 A+B+C	3,223	971	1,205	105	5,504
医業収益 A	2,209	627	11	0	2,847
入院収益	1,826	358	0	0	2,183
外来収益	360	161	0	0	521
その他医業収益	24	109	11	0	143
医業外収益 B	1,014	344	1,194	105	2,657
うち長期前受金戻入	89	13	140	1	243
うち繰入金	897	329	798	104	2,128
ア 経常収益 A+B	3,223	971	1,205	105	5,504
特別利益 C	0	0	0	0	0
②病院事業費用 D+E+F	3,197	883	1,207	105	5,392
医業費用 D	3,042	862	1,124	105	5,132
うち給与費	2,114	530	0	97	2,741
うち材料費	193	61	0	0	254
うち経費	544	207	781	6	1,537
うち減価償却費	177	61	329	2	569
うち資産減耗費	6	1	13	0	20
医業外費用 E	156	20	83	1	260
イ 経常費用 D+E	3,197	883	1,207	105	5,392
特別損失 F	0	0	0	0	0
経常損益 アーイ	26	88	△2	0	112
純損益 ①-②	26	88	△2	0	112

\*百万円未満四捨五入のため、合計や差額が合わない場合があります。



## ⑥ 患者数の状況

患者数については、入院患者数が延べ198,984人(1日平均545.2人)、外来患者数が延べ160,458人(1日平均660.3人)で、前年度と比較して、入院患者数は9,134人、外来患者数は95人の増加となりました。

【表6】延べ患者数

(単位:人)

	入院患者数				外来患者数			
	H27	H28	増減 (H28-H27)	前年度比 (H28/H27)	H27	H28	増減 (H28-H27)	前年度比 (H28/H27)
こころの医療センター	101,950	103,904	1,954	101.9%	61,920	61,611	△309	99.5%
一志病院	13,203	13,903	700	105.3%	21,255	20,688	△567	97.3%
志摩病院	74,697	81,177	6,480	108.7%	77,188	78,159	971	101.3%
うち、一般病床、 一般外来	42,390	48,020	5,630	113.3%	68,121	68,620	499	100.7%
合計	189,850	198,984	9,134	104.8%	160,363	160,458	95	100.1%

【表7】1日平均患者数

(単位:人/日)

	入院患者数				外来患者数			
	H27	H28	増減 (H28-H27)	前年度比 (H28/H27)	H27	H28	増減 (H28-H27)	前年度比 (H28/H27)
こころの医療センター	278.6	284.7	6.1	102.2%	254.8	253.5	△1.3	99.5%
一志病院	36.1	38.1	2.0	105.6%	87.5	85.1	△2.4	97.3%
志摩病院	204.1	222.4	18.3	109.0%	317.6	321.6	4.0	101.3%
うち、一般病床、 一般外来	115.8	131.6	15.8	113.6%	280.3	282.4	2.1	100.7%
合計	518.7	545.2	26.5	105.1%	659.9	660.3	0.4	100.1%

\*四捨五入のため、合計や差額が合わない場合があります。

## (2) 資本的収支

「① 資本的収入」については、企業債及び県費負担金等で、14億5,471万3,000円となりました。

また、「② 資本的支出」については、病院の施設・設備の改修や資産購入、企業債の償還等のため、19億928万8,236円を支出しました。そのうち建設改良費は、3億9,908万6,437円であり、その主な内容は、こころの医療センターにおける東2病棟地域生活支援施設化改修工事、一志病院における診療棟ほか改修工事、志摩病院におけるMRI（超伝導磁気共鳴画像診断装置）の購入等として執行したものです。

なお、収入と支出との差額4億5,457万5,236円については、内部留保資金を充当しました。

【表8】 資本的収入及び支出

(単位：円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	増減(H28-H27)	増減率
①資本的収入	1,441,678,000	1,454,713,000	13,035,000	0.9%
うち企業債	310,000,000	354,700,000	44,700,000	14.4%
うち県費負担金	748,612,000	750,013,000	1,401,000	0.2%
②資本的支出	1,821,100,324	1,909,288,236	88,187,912	4.8%
うち建設改良費	326,934,336	399,086,437	72,152,101	22.1%
うち企業債償還金	1,118,565,988	1,069,601,799	△48,964,189	△4.4%
資本的収支 ①-②	△379,422,324	△454,575,236	△75,152,912	—

【表9】 病院別 資本的収支

(単位：百万円)

	こころの医療センター	一志病院	志摩病院	県立病院課	合計
①資本的収入	346	48	1,060	1	1,455
うち企業債	100	37	218	0	355
うち県費負担金	246	11	492	1	750
②資本的支出	471	65	1,280	93	1,909
うち建設改良費	143	38	218	0	399
うち企業債償還金	328	28	712	2	1,070
資本的収支 ①-②	△125	△17	△220	△92	△455

\*百万円未満四捨五入のため、合計や差額が合わない場合があります。

### (3) 一般会計繰入金

救急医療の確保に要する経費や保健衛生行政事務に要する経費など、経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費等については、国の示す基準を踏まえた本県の積算基準に基づき、一般会計からの繰入金を受けています。

平成28年度の繰入金は、28億7,800万円であり、平成27年度の繰入金28億3,700万円と比較し、指定管理者への交付金が増加したことなどに伴い、4,100万円の増加となっています。

【表10】一般会計繰入金の内訳

(単位:百万円)

繰入項目	こころの医療センター	一志病院	志摩病院	県立病院課	合計
項目1 人材育成に要する経費	62	22	0	0	84
項目2 救急医療の確保に要する経費	88	36	0	0	123
項目3 保健衛生行政事務に要する経費	13	14	765	79	872
災害拠点病院に要する経費	5	0	0	0	5
院内保育所運営に要する経費	6	0	0	0	6
認知症疾患医療センター運営に要する経費	2	0	0	0	2
医療行政に要する経費	0	14	765	79	858
項目4 経営基盤強化対策に要する経費	47	230	0	5	281
不採算地区に立地することにより要する経費	0	218	0	0	218
医師及び看護師等の研究研修に要する経費	2	1	0	0	3
共済組合追加費用の負担に要する経費	45	10	0	4	60
項目5 特殊医療に要する経費	67	14	0	0	80
生活指導、訪問指導に要する経費	0	14	0	0	14
アルコール医療に要する経費	37	0	0	0	37
認知症医療に要する経費	12	0	0	0	12
精神科早期介入に要する経費	18	0	0	0	18
項目6 建設改良に要する経費(企業債利息支払)	44	0	33	0	77
項目7 精神病院運営割高経費	521	0	0	0	521
項目8 公的基礎年金拠出金に要する経費	56	13	0	5	74
項目9 児童手当に要する経費	0	0	0	16	16
収益的収入 計	897	329	798	104	2,128
項目10 建設改良に要する経費	246	11	492	1	750
建設改良費(施設整備費、医療機器購入費)	33	0	1	0	33
企業債償還金	213	11	492	1	717
資本的収入 計	246	11	492	1	750
合 計	1,143	340	1,290	105	2,878

\*百万円未満四捨五入のため、合計や差額が合わない場合があります。

【参考】

(単位:百万円)

	こころの医療センター	一志病院	志摩病院	県立病院課	合計
平成27年度一般会計繰入額	1,102	380	1,254	101	2,837

#### (4) 貸借対照表

平成29年3月末時点での貸借対照表において、「① 資産」については、減価償却による固定資産の減等により、4億2,171万9,783円減の103億8,706万1,263円、「② 負債」については、企業債の償還等により、8億539万3,511円減の179億34万8,934円、「③ 資本」については、退職手当債の償還に係る一般会計繰入金の受入及び純利益の計上による剰余金の増により、3億8,367万3,728円増の△75億1,328万7,671円となりました。

【表11】 貸借対照表

(単位：円)

	平成27年度末	平成28年度末	増減(H28-H27)
<b>①資産</b>	10,808,781,046	10,387,061,263	△421,719,783
<b>固定資産 A</b>	9,206,199,069	8,970,553,480	△235,645,589
有形固定資産	8,913,259,243	8,694,038,404	△219,220,839
無形固定資産	2,367,391	2,350,892	△16,499
投資その他の資産	290,572,435	274,164,184	△16,408,251
<b>流動資産 B</b>	1,602,581,977	1,416,507,783	△186,074,194
うち現金預金	1,065,677,496	882,752,377	△182,925,119
うち未収金	511,230,681	509,959,640	△1,271,041
<b>資産合計 A+B</b>	10,808,781,046	10,387,061,263	△421,719,783
<b>②負債</b>	18,705,742,445	17,900,348,934	△805,393,511
<b>固定負債 C</b>	14,428,149,631	13,760,766,881	△667,382,750
企業債	7,310,837,006	6,878,132,338	△432,704,668
他会計借入金	5,690,592,278	5,600,592,278	△90,000,000
引当金	1,426,720,347	1,282,042,265	△144,678,082
<b>流動負債 D</b>	1,716,568,280	1,342,995,791	△373,572,489
うち企業債	1,069,601,799	787,404,668	△282,197,131
うち引当金	164,811,000	164,811,000	0
うち未払金	463,100,958	377,480,643	△85,620,315
<b>繰延収益 E</b>	2,561,024,534	2,796,586,262	235,561,728
長期前受金	4,604,802,970	5,082,915,970	478,113,000
長期前受金収益化累計額	△2,043,778,436	△2,286,329,708	△242,551,272
<b>③資本</b>	△7,896,961,399	△7,513,287,671	383,673,728
<b>資本金 F</b>	311,409,778	311,409,778	0
<b>剰余金 G</b>	△8,208,371,177	△7,824,697,449	383,673,728
資本剰余金	1,099,508,372	1,371,408,372	271,900,000
欠損金	△9,307,879,549	△9,196,105,821	111,773,728
<b>負債・資本合計 C+D+E+F+G</b>	10,808,781,046	10,387,061,263	△421,719,783

【参考】収益的収支の予算対比（税込み）

（単位：百万円）

	平成 28 年度		
	最終補正予算 (ア)	決算 (イ)	増 減 (イ)-(ア)
①病院事業収益 A+B+C	5,519	5,515	△3
医業収益 A	2,861	2,857	△4
入院収益	2,181	2,183	2
外来収益	534	521	△13
その他医業収益	146	153	7
医業外収益 B	2,657	2,658	1
うち長期前受金戻入	243	243	0
うち繰入金	2,129	2,128	0
特別利益 C	0	0	0
②病院事業費用 D+E+F	5,429	5,402	△28
医業費用 D	5,228	5,201	△27
うち給与費	2,752	2,744	△8
うち材料費	263	265	2
うち経費	1,610	1,591	△19
うち減価償却費	569	569	0
うち資産減耗費	20	20	0
医業外費用 E	201	201	△1
特別損失 F	0	0	0
経常損益 (A+B) - (D+E)	90	114	24
純損益 ①-②	90	114	24

\*百万円未満四捨五入のため、合計や差額が合わない場合があります。

【参考】資本的収支の予算対比（税込み）

（単位：百万円）

	平成 28 年度			
	最終補正予算 (ア)	前年度繰越額 (イ)	決算 (ウ)	増 減 (ウ)-{(ア)+(イ)}
①資本的収入	1,446	11	1,455	△2
うち企業債	345	11	355	△1
うち県費負担金	751	0	750	△1
②資本的支出	1,905	11	1,909	△7
うち建設改良費	395	11	399	△7
うち企業債償還金	1,070	0	1,070	0
資本的収支 ①-②	△459	0	△455	5

\*百万円未満四捨五入のため、合計や差額が合わない場合があります。

## 【報告】

### 私債権の放棄について

「三重県債権の管理及び私債権の徴収に関する条例」第14条第2項の規定に基づき、平成28年度末までに消滅時効の期間が経過し、債務者が時効の援用をしていない債権のうち、4件、73万7,240円について、債務者が生活保護を受給していることから、強制執行をすることによって、その債務者の生活を著しく窮迫させるおそれがあると認められるため、債権を放棄しました。

#### 放棄の事由等

私債権の種類	放棄の事由	件数	債権額
県立病院使用料等	条例第14条第2項第2号 (強制執行により債務者の生活を著しく窮迫させるおそれがある)	4件	737,240円

《参考：三重県債権の管理及び私債権の徴収に関する条例（抜粋）》

（私債権の放棄）

第十四条（第1項 略）

2 知事等は、私債権のうち消滅時効の期間が経過したもの（債務者が援用をしていないものに限る。）について、次の各号のいずれかに掲げる事由があると認められるときは、当該私債権及びこれに係る損害賠償金等を放棄することができる。

- 一 債務者に差し押さえることができる財産がないとき。
- 二 強制執行をすることによって債務者の生活を著しく窮迫させるおそれがあるとき。
- 三 債務者の所在及び差し押さえることができる財産が共に不明であるとき。

【参考】

## 債権処理計画（平成28年度実績・平成29年度目標）について （病院事業関係分）

	頁
・平成28年度 債権処理計画（実績・総括票）・・・・・・・・・・・・・・・・	14
・平成28年度 債権処理計画（実績・個票）・・・・・・・・・・・・・・・・	15
・平成29年度 債権処理計画（目標・総括票）・・・・・・・・・・・・・・・・	17
・平成29年度 債権処理計画（目標・個票）・・・・・・・・・・・・・・・・	18

様式(実績2)

平成28年度 債権処理計画(実績・総括票)

1 部局長等名	病院事業庁長
2 取りまとめ担当課名	県立病院課

滞納債権の現状

3 平成28年度実績

債権の性格	種別	A 平成27年度実績	B 当初(平成27年度末)	C 平成28年度 目標(28年度発生分を除く。)				D 実績(平成28年度末)(28年度発生分を除く。)				E 28年度発生分期末残高	F 平成28年度末 B-D+E	主な債権	
		処理額	未済額	処理額	回収率・整理率		処理額	回収率・整理率		目標達成率	金額	金額			
		処理件数	未済件数	処理件数	全体比 C/B(%)	前年比 C/A(%)	処理件数	全体比 D/B(%)	前年比 D/A(%)	D/C(%)	件数	件数			
3-1 強制徴収公債権	回収対象	0円		0円	回収率		0円	回収率							
		0件		0件	回収率		0件	回収率							
	整理対象	0円		0円	整理率		0円	整理率							
		0件		0件	整理率		0件	整理率							
	計	0円	0円	0円	処理率		0円	処理率			0円	0円			
		0件	0件	0件	処理率		0件	処理率			0件	0件			
3-2 非強制徴収公債権	回収対象	0円		0円	回収率		0円	回収率							
		0件		0件	回収率		0件	回収率							
	整理対象	0円		0円	整理率		0円	整理率							
		0件		0件	整理率		0件	整理率							
	計	0円	0円	0円	処理率		0円	処理率			0円	0円			
		0件	0件	0件	処理率		0件	処理率			0件	0件			
3-3 私債権	回収対象	4,104,781円		4,674,171円	回収率	113.9	4,600,540円	回収率	112.1	98.4					
		34件		20件	回収率	58.8	27件	回収率	79.4	135.0					
	整理対象	63,480円		2,844,175円	整理率	4,480.4	3,407,355円	整理率	5,367.6	119.8					
		1件		2件	整理率	200.0	5件	整理率	500.0	250.0					
	計	4,168,261円	80,683,028円	7,518,346円	処理率	9.3	8,007,895円	処理率	9.9	192.1	106.5	4,154,665円	76,829,798円		
		35件	524件	22件	処理率	4.2	32件	処理率	6.1	91.4	145.5	40件	532件		
合計	回収対象	4,104,781円		4,674,171円	回収率	113.9	4,600,540円	回収率	112.1	98.4					
		34件		20件	回収率	58.8	27件	回収率	79.4	135.0					
	整理対象	63,480円		2,844,175円	整理率	4,480.4	3,407,355円	整理率	5,367.6	119.8					
		1件		2件	整理率	200.0	5件	整理率	500.0	250.0					
	計	4,168,261円	80,683,028円	7,518,346円	処理率	9.3	8,007,895円	処理率	9.9	192.1	106.5	4,154,665円	76,829,798円		
		35件	524件	22件	処理率	4.2	32件	処理率	6.1	91.4	145.5	40件	532件		

県立病院使用料等  
契約解除に係る違約金



様式(実績1)

平成28年度 債権処理計画(実績・個票)

1 債権名	県立病院使用料等
2 債権の性格	私債権
3 債権の概要	県立病院で診療、処置等を受けた者が納付しなければならない使用料等(三重県病院事業条例)
4 滞納となった要因等	患者の生活困窮
5 部局長等名	病院事業庁長
6 所管課等名	県立病院課

7 取組方針	回収対象債権について、積極的に納付の督促等を実施する。
8 取組成果	債務者に対して、書面、電話、臨戸訪問等により督促等を行い早期の納付を促すとともに、支払督促や弁護士への回収業務委託も実施した。 そうした結果、平成28年度中において約460万円の債権を回収することができた。

滞納債権の現状

9 平成28年度実績

債権の性格	種別	A 平成27年度実績	B 当初(平成27年度末)	C 平成28年度目標(28年度発生分を除く。)			D 実績(平成28年度末)(28年度発生分を除く。)				E 28年度発生分期末残高	F 平成28年度末B-D+E		
		処理額	未済額	処理額	回収率・整理率		処理額	回収率・整理率		目標達成率	金額	金額		
		処理件数	未済件数	処理件数	全体比C/B(%)	前年比C/A(%)	処理件数	全体比D/B(%)	前年比D/A(%)	D/C(%)	件数	件数		
9-3  私債権	回収対象	4,104,781 円		4,674,171 円	回収率	113.9	4,600,540 円	回収率	112.1	98.4				
		34 件		20 件	回収率	58.8	27 件	回収率	79.4	135.0				
	整理対象	63,480 円		174,060 円	整理率	274.2	737,240 円	整理率	1,161.4	423.6				
		1 件		1 件	整理率	100.0	4 件	整理率	400.0	400.0				
	計	4,168,261 円	78,012,913 円	4,848,231 円	回収率	6.2	116.3	5,337,780 円	回収率	6.8	128.1	110.1	4,154,665 円	76,829,798 円
		35 件	523 件	21 件	回収率	4.0	60.0	31 件	回収率	5.9	88.6	147.6	40 件	532 件

様式(実績1)

平成28年度 債権処理計画(実績・個票)

1 債権名	契約解除に係る違約金
2 債権の性格	私債権
3 債権の概要	委託業者の廃業(破産)により契約を解除したことによる違約金(三重県病院事業庁会計規程)
4 滞納となった要因等	業績不振
5 部局長等名	病院事業庁長
6 所管課等名	県立病院課

7 取組方針	現在、債務者が破産手続中であり、破産管財人との連絡窓口である出納局を通じ当該手続の状況を把握し、裁判所の決定を待って適正に債権処理を行う。
8 取組成果	平成28年7月20日に債務者が破産し、収納不能となったことから、三重県病院事業庁会計規程第33条の規定により不納欠損処分を行った。

滞納債権の現状

9 平成28年度実績

債権の性格	種別	A 平成27年度実績	B 当初(平成27年度末)	C 平成28年度目標(28年度発生分を除く。)			D 実績(平成28年度末)(28年度発生分を除く。)				E 28年度発生分期末残高	F 平成28年度末B-D+E
		処理額	未済額	処理額	回収率・整理率		処理額	回収率・整理率		目標達成率	金額	金額
		処理件数	未済件数	処理件数	全体比C/B(%)	前年比C/A(%)	処理件数	全体比D/B(%)	前年比D/A(%)	D/C(%)	件数	件数
9-3  私債権	回収対象	0円		0円	回収率		0円	回収率				
		0件		0件	回収率		0件	回収率				
	整理対象	0円		2,670,115円	整理率		2,670,115円	整理率		100.0		
		0件		1件	整理率		1件	整理率		100.0		
	計	0円	2,670,115円	2,670,115円	処理率	100.0	2,670,115円	処理率	100.0	100.0	0円	0円
		0件	1件	1件	処理率	100.0	1件	処理率	100.0	100.0	0件	0件

様式(目標2)

平成29年度 債権処理計画(目標・総括票)

1 部局長等名	病院事業庁長
2 取りまとめ担当課名	県立病院課

滞納債権の現状

3 平成29年度目標

債権の性格	種別	A 平成28年度末	B 平成29年度 目標 (29年度発生分を除く。)			C 平成29年度当初に存在する債権にかか る平成28年度処理額 (28年度発生分を除く。)	主な債権
		未済額	処理額	回収率・整理率		処理額	
		未済件数	処理件数	全体比 B/A(%)	前年比 B/C(%)	処理件数	
3-1 強制徴収 公債権	回収		0 円 0 件	回収率		0 円 0 件	
	整理		0 円 0 件	整理率		0 円 0 件	
	計	0 円 0 件	0 円 0 件	処理率		0 円 0 件	
3-2 非強制徴収 公債権	回収		0 円 0 件	回収率		0 円 0 件	
	整理		0 円 0 件	整理率		0 円 0 件	
	計	0 円 0 件	0 円 0 件	処理率		0 円 0 件	
3-3 私債権	回収		5,277,035 円 35 件	回収率	114.7 129.6	4,600,540 円 27 件	県立病院使用料等
	整理		2,675,545 円 15 件	整理率	362.9 375.0	737,240 円 4 件	
	計	76,829,798 円 532 件	7,952,580 円 50 件	処理率	10.4 9.4	5,337,780 円 31 件	
合計	回収		5,277,035 円 35 件	回収率	114.7 129.6	4,600,540 円 27 件	
	整理		2,675,545 円 15 件	整理率	362.9 375.0	737,240 円 4 件	
	計	76,829,798 円 532 件	7,952,580 円 50 件	処理率	10.4 9.4	5,337,780 円 31 件	

※ 前年度に完済した債権は、現年度の債権処理計画(目標)を作成しないことから、C欄に含まれません。  
完済した債権を含む前年度の債権処理実績は、別冊「債権処理計画(実績)」でまとめています。

## 様式(目標1)

## 平成29年度 債権処理計画(目標・個票)

1 債権名	県立病院使用料等
2 債権の性格	私債権
3 債権の概要	県立病院で診療、処置等を受けた者が納付しなければならない使用料等(三重県病院事業条例)
4 滞納となった要因等	患者の生活困窮
5 部局長等名	病院事業庁長
6 所管課等名	県立病院課

7 取組 方針	回収対象債権について、積極的に納付の督促等を実施します。
---------------	------------------------------

## 滞納債権の現状

## 8 平成29年度目標

債権の性格	種別	A 平成28年度末	B 平成29年度目標 (29年度発生分を除く。)			C 平成29年度当初に存在する 債権にかかる平成28年度処理額 (28年度発生分を除く。)	備考		
		未済額	処理額	回収率・整理率		処理額			
		未済件数	処理件数	全体比 B/A(%)	前年比 B/C(%)	処理件数			
8-3     私債権	回収		5,277,035 円	回収率		114.7	4,600,540 円		
			35 件	回収率		129.6	27 件		
	整理		2,675,545 円	整理率		362.9	737,240 円		
			15 件	整理率		375.0	4 件		
	計		76,829,798 円	7,952,580 円	処理率	10.4	149.0		5,337,780 円
			532 件	50 件	処理率	9.4	161.3		31 件

# 平成29年三重県議会定例会 予算決算常任委員会

## 提出資料

	頁
1 病院事業庁長及び各病院長のマネジメントシート	
・病院事業庁長マネジメントシート（平成28・29年度）	2
・こころの医療センター院長マネジメントシート（平成28・29年度）	6
・一志病院長マネジメントシート（平成28・29年度）	10

平成29年10月2日  
病院事業庁



## 病院事業庁長及び各病院長のマネジメントシートについて

病院事業庁では、全職員が一丸となって業務改善に取り組むためのマネジメントシステムとして、平成14年度から「BSC（バランス・スコアカード）」の考え方に基づくマネジメントを導入しており、病院事業庁長や病院長などが1年間の運営方針とこれに基づく主な取組を1枚のシート（マネジメントシート）にまとめて、県立病院の運営に係る進捗管理を行っています。

### BSC（バランス・スコアカード）とは

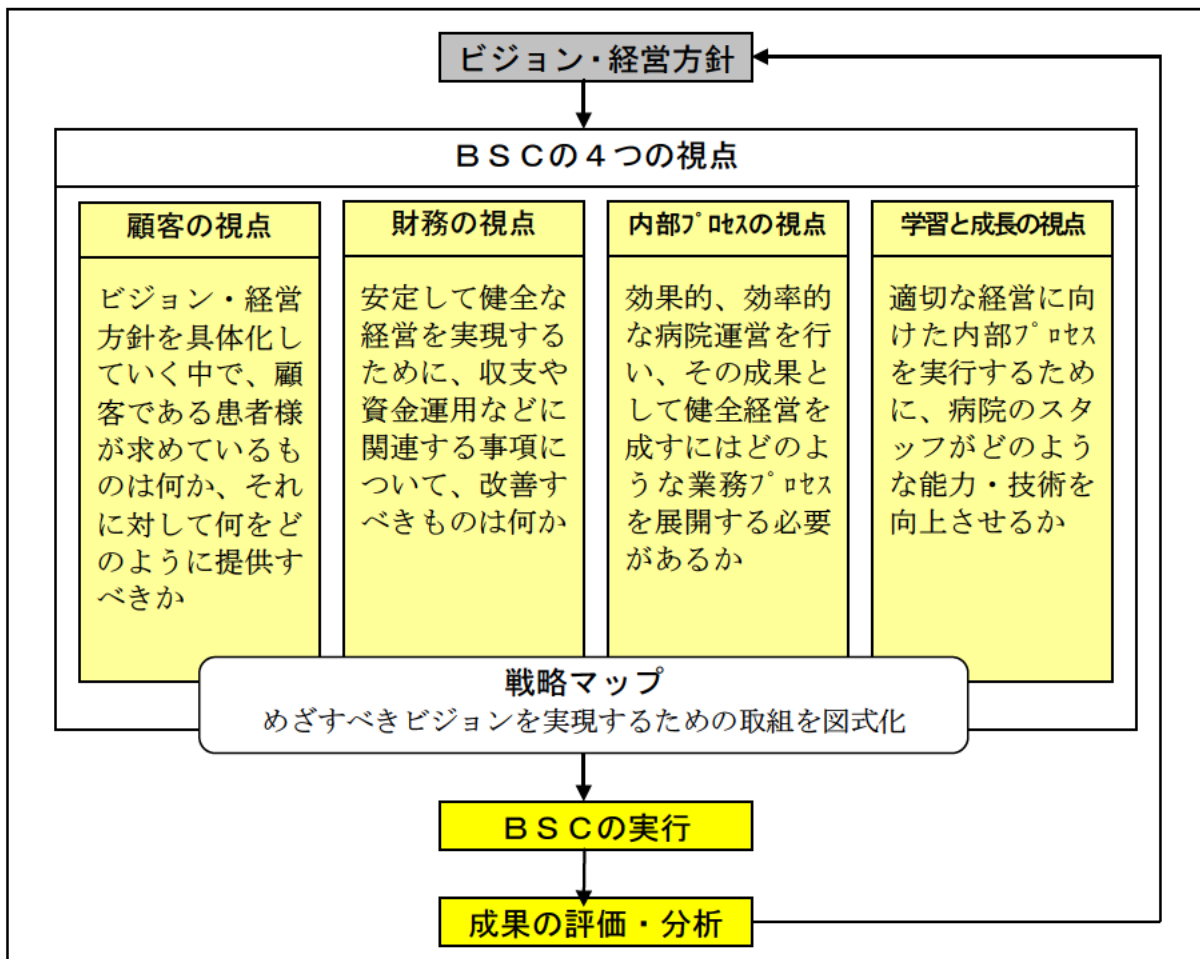
マネジメントシートの基本となっている「BSC」は、戦略を具体化し、これを実行するための経営管理の考え方と仕組みです。

### BSCに基づく病院事業庁マネジメントシートの構成

病院事業庁及び各県立病院は、マネジメントシートを作成し、「ビジョン」を掲げるとともに、そのビジョンを達成するための「経営方針」を策定します。

さらに、この「ビジョン」を達成するための戦略目標や業績評価指標をBSCの考え方に基づき、4つの視点で分類しています。

また、経営戦略の考え方を図式化、可視化することによって、職員間のコミュニケーション・ツールとして活用しています。



平成28年度 病院事業庁長マネジメントシート(最終実績)

病院名	三重県病院事業庁							
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支援します。また、医療							
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。また、医師・看護師等さらに、風通しの良い職場、思いを共有し、共に実践する組織をめざします。							
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	H27 実績値	H28 目標値	H28 実績値	
顧客の 視点	<p>安定的、継続的な医療の提供</p> <p>地域や県民ニーズに応じた医療の提供</p> <p>良質で安全・安心な医療の提供</p> <p>患者満足度の高い医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●精神科専門医療の提供</li> <li>●家庭医療の実践</li> <li>●地域に必要な医療体制の整備</li> <li>●地域の医療機関等との連携・協力</li> </ul>	安定的・継続的な医療の提供	患者満足度の向上	患者満足度(※)	74.9%	92.0%	91.2%	
			県立病院の役割・機能の提供	精神科医療に係る訪問看護件数	4,837件	5,000件	5,154件	
			救急医療の充実	家庭医療等外来患者数	103.0人/日	113.0人/日	101.0人/日	
			地域医療支援機能の充実	救急患者受入数	1,540人/年	1,230人/年	1,559人/年	
			医療事故の防止	紹介患者数	1,721人/年	1,700人/年	1,424人/年	
			志摩地域における医療提供体制の整備	医療過誤数	0件/年	0件/年	0件/年	
				志摩病院における入院・外来・救急患者数	204.1人/日 317.6人/日 5,485人/年	245.0人/日 330.3人/日 5,840人/年	222.4人/日 321.6人/日 6,066人/年	
財務の 視点	<p>県立病院の健全経営</p>	県立病院の健全経営	経常収支均衡 資金収支均衡	経常収支比率	101.8%	101.5%	102.7%	
			職員給与比率の適正化	職員給与費対 医業収益率	96.5%	94.1%	96.6%	
			病床稼働率の向上	病床稼働率	79.9%	85.5%	81.9%	
内部ブ ロセスの 視点	<p>医師・看護師など医療スタッフの確保・定着</p> <p>病院機能の充実、業務改善、革新</p> <p>危機管理の推進とコンプライアンスの確立</p>	医療スタッフの確保	人材の確保・定着	医師充足率	85.3%	100.0%	79.9%	
				看護師充足率	99.6%	100.0%	100.0%	
			業務改善の 推進	研修医の受入れ	後期研修医受 入人数	6人	5人	5人
				看護師等実習生の受入れ	看護実習生等 受入人数	2,432人/年	2,418人/年	2,300人/年
				改善活動の定着	業務改善取組 テーマ数	2件	2件	2件
			危機管理の 推進とコン プライアンス の確立	災害医療体制の構築	災害時の医療 支援訓練実施 回数	4回/年	3回/年	5回/年
				リスクマネジメントの確立実践	医療安全委員 会の開催回数	27回	24回	25回
コンプライアンスの確立実践	研修会等の実施	3回		3回	3回			
指定管理者 制度導入後 の進捗管理	指定管理者による 診療体制の充実	管理運営協議 会の開催	2回	2回	2回			
学習と 成長の 視点	<p>風通しの良い職場づくり</p> <p>チーム力を最大にする コミュニケーションの向上</p> <p>一人ひとりの職員の専門 能力の向上</p>	風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的回答割合	—	65.0%	63.4%	
			コミュニケーションの向上	病院現場訪問等	—	5回	5回	
			専門能力の向上(スキルアップ)	職員アンケート「プロとして成長しているか」の設問での肯定的回答割合	—	68.0%	65.0%	
			職員の危機管理意識の向上	医療安全研修等研修参加率	91.1%	90.0%	83.4%	



従事者にとって魅力のある病院づくりを進めます。  
 の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みます。

アクションプラン	実績評価	次年度への課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>患者アンケートの分析、改善活動</li> <li>医療機関、県民等を対象とした研究会、講演会、セミナー、病院祭等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者アンケートによる満足度については、概ね目標を達成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、患者に対してより一層親切で丁寧な対応を心がけるとともに、業務改善を推進し、患者満足度を向上させるための取組を実施していく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>こころの医療センターにおける地域生活支援機能の充実や一志病院における家庭医を中心とした地域医療の取組実践等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こころの医療センターの訪問看護件数については、前年度を上回るとともに、目標を達成することができた。</li> <li>一志病院の家庭医療等外来患者数については、前年度を下回り、目標を達成することができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こころの医療センターについては、多職種による訪問看護を実施するなど、引き続き、外来患者の地域生活支援を推進する必要がある。</li> <li>一志病院については、引き続き、訪問診療等の在宅療養支援や住民健診等の予防医療を提供していく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>救急医療の提供体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こころの医療センターは前年度を下回ったものの、一志病院は前年度を上回り、トータルで目標を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こころの医療センター、一志病院ともに、引き続き、関係機関との連携を図りながら救急患者の受入体制を維持していく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>病病、病診連携等地域連携の推進</li> <li>地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の強化</li> <li>事故防止のための取組強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の医療機関を訪問するなど連携を進めたものの、目標を達成することができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、医療機関を訪問するなど、連携・協力関係を推進していく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療体制の回復を図るとともに、地域のニーズに応じた医療を提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全に係る委員会の活動を通じて、職員の意識向上を図り、目標を達成することができた。</li> <li>入院患者数、外来患者数は目標を達成することができなかったものの、すべての指標で前年度実績を上回ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療事故の発生防止のため、引き続き院内の研修会等の充実に取り組んでいく必要がある。</li> <li>病床の効率的な運用や、診療体制のさらなる充実等により、患者数の増加につなげていく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>年度計画(こころ、一志)の進捗管理</li> <li>2病院の医業収支比率の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経常収支比率について、目標を達成するとともに、前年度に引き続き黒字を確保することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、医療サービスの充実により、患者数の確保と単価の増を図るとともに、費用の一層の縮減にも取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>医師確保(県医療対策局との連携、大学等への医師派遣要請等)</li> <li>勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の柔軟化や良好な住環境の確保等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三重大学等への医師派遣の要請を継続的に行ったものの、目標を達成できず、また、前年度の実績も下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、三重大学等に対して、常勤医師に加え、非常勤医師も含めた医師派遣の充実についての要請を継続するとともに、勤務医にとって魅力ある病院づくりを進めていく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師の確保・定着のための修学資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等</li> <li>後期研修医の受入体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学等の養成機関への積極的な訪問や就職説明会への参加、採用試験の複数回実施など、採用機会を確保し、目標を達成することができた。</li> <li>指導医を確保し、目標を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、大学等の養成機関への積極的な訪問を行うなど看護師の確保に向けて取り組むとともに、看護師にとって魅力のある病院づくりを進めていく必要がある。</li> <li>引き続き、後期研修医を受け入れられるよう指導体制を維持していく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学生を対象とした看護実習の充実</li> <li>研修指導医、看護実習指導者等の育成</li> <li>未収金対策、診療報酬対策の2つをテーマに掲げ、業務改善活動を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習受入依頼に積極的に応えたものの目標を達成することができなかった。</li> <li>未収金については、様々な発生防止対策に取り組むとともに、診療報酬については、新たな加算等を取ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、実習内容をPRしながら、受入要請に積極的に対応していく必要がある。</li> <li>引き続き、県立病院課職員と病院職員が連携して、業務改善活動を推進していく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療事故や自然災害等を想定した図上訓練の実施等</li> <li>災害支援体制の確立(院内備蓄の整備・充実)</li> <li>医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不測の見直し・検討</li> <li>個人情報管理等安全確保のための組織の充実</li> <li>コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図上訓練等を計画的に実施することができた。</li> <li>各病院における医療安全に関する委員会を定期的に開催するとともに、マニュアル等の見直しを行うことができた。</li> <li>事例検討を通じたコンプライアンス研修を計画的に実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、各種研修会等を計画的に実施し、災害時等における対応力の向上やコンプライアンスの徹底を図っていく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者制度導入後の連携・調整に係る体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院事業庁と指定管理者の代表者等で構成する会議(志摩病院管理運営協議会)を開催し、診療体制の回復・充実に向けた意見交換を行い、その対策について計画的な実施を進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>志摩地域の中核病院としての役割・機能を担っていくため、引き続き、指定管理者と密接に連携し、診療機能の一層の向上を図っていく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「明るく(A)、楽しく(T)、前向きに(M)、そして自身の健康と家族を大切に」をモットーに明るく風通しのよい職場づくりの推進</li> <li>ワーク・ライフ・マネジメントシート等を活用した対話の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員満足度が向上するよう、明るく風通しのよい職場づくりや休暇取得を促進するなど、ワーク・ライフ・マネジメントを推進した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、職員満足度の向上を図るため、明るく風通しのよい職場づくりやワーク・ライフ・マネジメントの推進に努めていく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間のコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり</li> <li>研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院現場を訪問し、各病院職員と対話することで、思いを共有することができた。</li> <li>研修への参加を促進するなど、職員の専門性や意識の向上に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、職員との対話を通じて、風通しのよい職場づくりに努めていく。</li> <li>引き続き、職員の専門性を向上し、維持していくために、職員の意識を高めながら、有効な研修の機会の拡充等に努めていく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全研修会等の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの職員が参加できるよう、研修会を複数回開催したものの目標を達成することができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの職員が参加できるよう工夫するとともに、効果的な研修会を開催していく必要がある。</li> </ul>

※H27年度までは、「当院を親しい友人等へ紹介しますか」という設問に対する肯定的な回答割合により算出していましたが、H28年度からは、「当院の診療に満足していますか」との設問に対する肯定的な回答割合により算出しています。

病院名	三重県病院事業庁			
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支援			
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。またさらに、風通しの良い職場、思いを共有し、共に実践する組織をめざします。			
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標
顧客の視点	<p>安定的、継続的な医療の提供</p> <p>地域や県民ニーズに応じた医療の提供</p> <p>良質で安全・安心な医療の提供</p> <p>患者満足度の高い医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●精神科専門医療の提供</li> <li>●家庭医療の実践</li> <li>●地域に必要な医療体制の整備</li> <li>●地域の医療機関等との連携・協力</li> </ul>	安定的・継続的な医療の提供	患者満足度の向上 県立病院の役割・機能の提供 救急医療の充実 地域の関係機関等との連携強化 医療事故の防止 志摩地域における医療提供体制の整備	患者満足度 訪問看護等延べ患者数 救急患者受入数 関係機関等との連携件数 医療過誤数 志摩病院における入院・外来・救急患者数
財務の視点	<p>県立病院の健全経営</p>	県立病院の健全経営 病床利用率の向上	経常収支均衡 資金収支均衡 病床利用率の向上	経常収支比率 医業収支比率 1日平均入院患者数 1日平均外来患者数 病床利用率
内部プロセスの視点	<p>医師・看護師など医療スタッフの確保・定着</p> <p>病院機能の充実、業務改善、革新</p> <p>危機管理の推進とコンプライアンスの確立</p>	医療スタッフの確保 業務改善の推進 危機管理の推進とコンプライアンスの確立 指定管理者制度導入後の進捗管理	人材の確保・定着 研修医の受入れ 看護師等実習生の受入れ 改善活動の定着 災害医療体制の構築 リスクマネジメントの確立実践 コンプライアンスの確立実践 指定管理者による診療体制の充実	医師充足率 看護師充足率 後期研修医受入人数 看護実習生等受入人数 業務改善取組テーマ数 災害時の医療支援訓練実施回数 医療安全委員会の開催回数 研修会等の実施 管理運営協議会の開催
学習と成長の視点	<p>風通しの良い職場づくり</p> <p>チーム力を最大にするコミュニケーションの向上</p> <p>一人ひとりの職員の専門能力の向上</p>	風通しの良い職場づくり 一人ひとりの職員の力を伸ばす専門能力の向上	職員満足度の向上 コミュニケーションの向上 専門能力の向上(スキルアップ) 職員の危機管理意識の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的回答割合 病院現場訪問等 職員アンケート「プロとして成長しているか」の設問での肯定的回答割合 危機管理研修等参加率

します。また、医療従事者にとって魅力のある病院づくりを進めます。

た、医師・看護師等の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みます。

H28 目標値	H28 実績	H29 目標値	アクションプラン
92.0%	91.2%	93.0%	・患者アンケートの分析、改善活動 ・医療機関、県民等を対象とした研究会、講演会、セミナー、病院祭等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施
—	9,349人	8,700人	・こころの医療センターにおける地域生活支援機能の充実や一志病院における訪問診療・訪問看護等の在宅療養支援の充実
1,230人/年	1,559人/年	1,230人/年	・救急医療の提供体制の確保
—	24件	34件	・地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の強化
0件/年	0件/年	0件/年	・事故防止のための継続した取組
245.0人/日 330.3人/日 5,840人/年	222.4人/日 321.6人/日 6,066人/年	237.0人/日 335.0人/日 6,276人/年	・指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療体制の回復を図るとともに、地域のニーズに応じた医療を提供
101.5% — — —	102.7% 70.8% 322.8人/日 338.6人/日	101.9% 71.4% 332.0人/日 358.0人/日	・2病院の医業収支比率の改善 ・入院患者数の確保に向けた取組 ・外来患者数の確保に向けた取組
85.5%	81.9%	84.3%	
100.0%	90.2% (79.9%)	100.0%	・医師確保(県医療対策局との連携、大学等への医師派遣要請等) ・勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の柔軟化や良好な住環境の確保等) (H28実績の( )は非常勤を含まない)
100.0%	100.0%	100.0%	・看護師の確保・定着のための修学資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等
5人	5人	5人	・後期研修医の受入体制の確立
2,418人/年	2,300人/年	2,530人/年	・看護学生を対象とした看護実習の充実 ・研修指導医、看護実習指導者等の育成
2件	2件	2件	・未収金対策、診療報酬対策の2つをテーマに掲げ、業務改善活動を推進
3回/年	5回/年	4回/年	・医療事故や自然災害等を想定した図上訓練の実施等 ・災害支援体制の確立(院内備蓄の整備・充実)
24回	25回	24回	・医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不断の見直し・検討 ・個人情報管理等安全確保のための組織の充実
3回	3回	3回	・コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等
2回	2回	2回	・指定管理者制度導入後の連携・調整に係る体制づくり
65.0%	63.4%	—	・「明るく(A)、楽しく(T)、前向きに(M)、そして自身の健康と家族を大切に」をモットーに明るく風通しのよい職場づくりの推進 ・ワーク・ライフ・マネジメントシート等を活用した対話の実施
5回	5回	5回	・現場やコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり
68.0%	65.0%	—	・研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保等)
—	84.3%	90.0%	・医療安全研修会等の開催

平成28年度 こころの医療センター院長マネジメントシート(最終実績)

病院名	こころの医療センター				
ビジョン	県民の皆さんのより良いこころの健康をめざし、三重県の精神科医療をリードします。				
経営方針	精神科急性期医療の拠点病院として整備充実し、患者様や地域関係機関等からのニーズに対応すべく、精神科専門医療を充実すること				
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	H27 実績値
顧客の 視点		◎重点取組事項 開かれた病院経営 早期社会復帰の推進 社会ニーズに応じる精神科専門医療の提供	病院機能の再編・推進 ステークホルダーとの協働 満足度の高い医療の提供 新患者の寛解率の向上 精神科救急・急性期医療の推進 地域生活支援体制の充実 地域医療機関との連携 精神科早期介入の推進 県民ニーズの高い精神科医療の取組	訪問看護件数 地域精神保健医療体制検討会開催 患者満足度(※) 新患者の寛解率 救急患者受入患者数 長期入院患者(5年超)の退院数 長期入院患者の多職種チーム医療 紹介率 医療機関訪問件数 早期介入対応件数 こころしっとこセミナー件数	4,837件 1回 74.9% 68.2% 232人/年 6件 7件 42.9% 200件 213件 38件
財務の 視点		◎重点取組事項 医療収支改善	臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立 医療収支比率の改善	臨床・経営指標の追加・充実 医療収支比率 経常収支比率 職員給与費比率 病床稼働率 アルコール病棟1日平均患者数 認知症病棟1日平均患者数 外来1日平均患者数 平均在院日数の短縮 ・急性期病棟(アルコール病棟を含む) ・療養病棟	追加 73.3% 101.6% 92.6% 80.0% 27.4人 38.1人 254.8人 63.7日 288.2日
内部プロセスの 視点		◎重点取組事項 救急急性期治療病院への体制整備 精神科倫理に則った病院運営	切れ目のない病院機能体制の確立 常時急性期患者受入体制の確立 医療安全感染管理の徹底	重度療養患者治療件数 措置鑑定対応件数 医療安全研修会参加率	5人 61件 91.3%
学習と成長の 視点		◎重点取組事項 専門性の向上 三重県の精神科をリードする取組 風通しの良い職場づくり	人材育成の充実取組 専門能力を身につけた職員の増加 精神科医療スタッフの育成 職員満足度の向上	倫理委員会(研修)開催数 人材育成研修開催数 看護実習等受入数 職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	3回 2回 2,241人 -

によって、県民から愛され信頼される病院づくりをめざします。

H28 目標値	H28 実績値	アクションプラン	実績評価	次年度への課題
5,000件	5,154件	・アウトリーチサービス、日中活動支援の充実	・訪問看護体制の充実(複数訪問の強化)を行い、目標を達成することができた。	・訪問看護をはじめとするデイケア等の日中活動支援に対するニーズに対応するための体制整備を引き続き進めていく必要がある。
2回	2回	・地域精神保健医療体制検討会の開催	・保健所と合同の会議を前年度に引き続き開催することができた。	・地域精神保健医療体制検討会以外の関係機関との連携強化も図る必要がある。
89.7%	87.5%	・患者等ニーズの把握	・施設、設備面の改善を図るとともに、接遇委員会による清掃活動や声の箱に対する対応を行った。	・引き続き、患者の皆さんの声を踏まえながら、職員研修等を実施していく必要がある。
60.0%	64.9%	・早期、急性期医療の充実 ・地域生活支援体制の推進	・寛解率は引き続き高いレベルを維持することができた。	・引き続き、早期、急性期医療の充実を図りながら、寛解率の向上に努めていく必要がある。
230人/年	211人/年	・精神科救急受入体制の確保	・三重県精神科救急医療システムの支援病院として、多くの救急患者の受入れを行った。	・引き続き、支援病院として受入体制を維持していく必要がある。
4件	2件	・院内委員会(チャレンジ会)の活動支援	・目標は下回ったものの、全体の長期入院患者数を減少させることができた。	・引き続き、長期入院患者の地域移行を図り、長期入院患者の減少に努める。
10件	7件	・リハビリパスの院内普及		
45.0%	48.9%	・地域医療機関への訪問	・紹介率、医療機関訪問件数の両方で目標を達成することができた。	・地域の医療機関との連携を深めながら、紹介率の向上を図っていく必要がある。
200件	200件	・地域連携ミーティングの開催		
200件	151件	・早期介入拠点(YMSC/MIE・YAC)の充実、ケースマネジメント体制の確立	・ころしとこセミナー件数は目標を達成したものの、早期介入対応件数は目標を達成することができなかった。	・YMSCの取組等を早期介入につなげられるような情報提供の方法等について引き続き、検討していく。
28件	45件	・精神科医療取組の広報・啓発等		
充実	指標事業への参加	・臨床・経営指標の追加等、データ分析	・全国自治体病院協議会が行っている「医療の質の評価・公表等推進事業」へ参加し、職員の知識を深めた。	・同左の事業における指標の分析を行い、他県の県立精神科病院との比較検討を行っていく必要がある。
73.9%	72.6%	・精神科専門治療の充実	・入院については、延べ入院患者数の増加により、病床稼働率が向上した。	・引き続き、病床稼働率や外来単価の向上等を図り、医業収益の増加に努める。
101.0%	100.8%	・精神科特定入院料の算定	・外来については、前年度とほぼ同数の平均患者数だったものの、目標を達成することができなかった。	
91.1%	95.7%	・収支改善に向けた病院機能の検討	・経常収支については、経常黒字を達成し、12年間連続の黒字を確保することができた。	
86.2%	81.8%	・病棟機能の明確化と病棟間の連携		
37.0人	27.5人	・飲酒運転違反者に対する診察		
40.0人	37.3人	・認知症相談、啓発研修の実施		
280.0人	253.5人	・各種プログラム等による支援の充実		
58日	67.8日			
260日	401.3日			
4人	3人	・重度療養患者に対する適切な治療の実施	・前年度より開始した重度療養患者に対する治療を継続して行えるよう、多職種による勉強会や症例の検討会を行った。	・重度療養患者の早期退院に向けて引き続き治療を進めていく必要がある。
50件	54件	・県障がい福祉課・保健所等との連携、院内救急体制整備	・措置鑑定要請に対して100%対応することができた。	・措置鑑定要請に100%対応できるよう、体制を維持していく必要がある。
90.0%	87.0%	・医療安全研修の複数回実施	・医療安全研修を複数回開催し、研修参加機会の供与に努めた。	・引き続き、医療安全意識の醸成のため、研修機会の供与を図っていく。
2回	2回	・職員の倫理意識向上のための研修の実施 ・職員表彰制度の継続実施	・身体拘束等の行動制限に係る研修を開催した。	・引き続き、医療倫理や職員のスキル向上につながる研修を実施し、人材を育成していく必要がある。
2回	2回	・職員のスキルアップのための体系的な院内研修の実施	・院内全職員を対象にした研修を開催し、知識向上を図った。	
2,200人	1,997人	・院内受入体制の整備 ・研修プログラムの見直し、充実 ・看護大学との連携による臨床能力の向上	・派遣元の学校の実習年度の変更(2年次→3年次)により、前年度実績を下回った。	・県内の精神科医療水準の向上のため、実習生等を積極的に受け入れていく必要がある。
62.0%	62.7%	・ワーク・ライフ・マネジメントの推進	・モチベーションが向上するよう職種間での対話を促進した。	・引き続き、対話を通じてワーク・ライフ・マネジメントを推進する必要がある。

※H27年度までは、「当院を親しい友人等へ紹介しますか」という設問に対する肯定的な回答割合により算出していましたが、H28年度からは、「当院の診療に満足していますか」との設問に対する肯定的な回答割合により算出しています。

平成29年度 こころの医療センター院長マネジメントシート

病院名	こころの医療センター		
ビジョン	県民の皆さんのより良いこころの健康をめざし、精神科疾患があっても地域で安心して暮らせるよう、医療サービスを提供していきます。		
経営方針	精神科の医療倫理を遵守し、患者や家族の皆さんの視点に立った良質で満足度の高い医療サービスを提供しながら、健全な病院運営政策的医療や専門的医療、災害医療の取組において、県内の精神科医療における中核病院としての役割を担い、県の精神科医療を		
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の 視点		◎重点取組事項	病院機能の再編・推進
		早期社会復帰の推進	満足度の高い医療の提供
財務の 視点		◎重点取組事項	臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立
		医業収支改善	医業収支比率の改善
内部プ ロセス の視点		◎重点取組事項	常時急性期患者受入体制の確立
		医療体制の構築	医師の充足
学習と 成長の 視点		◎重点取組事項	人材育成の充実取組
		専門性の向上	専門能力を身につけた職員の増加
		三重県の精神科をリードする取組	精神科医療スタッフの育成
		風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上

を進めます。  
リードします。

業績評価指標	H28 目標値	H28 実績値	H29 目標値	アクションプラン
デイケア・ショートケア延べ患者数	—	12,858人	18,000人	・日中活動支援の充実
患者満足度	89.7%	87.5%	91.1%	・患者等ニーズの把握
新患者の寛解率	60.0%	64.9%	60.0%	・早期、急性期医療の充実 ・地域生活支援体制の推進
精神科救急患者受入患者数	230人/年	211人/年	230人/年	・精神科救急受入体制の確保
訪問看護延べ患者数	5,000人/年	5,154人/年	5,000人/年	・アウトリーチサービスの充実
入院後1年以内の患者退院率	—	94.7%	95.0%	・地域の関係施設との連携及び日中活動支援等の充実
障害福祉サービス事業所等との連携取組件数	—	4件	4件	・地域医療機関への訪問 ・地域連携ミーティングの開催及び協働事業の開催
医療機関訪問件数	200件	200件	200件	
精神科早期介入対応件数	200件	151件	200件	・早期介入拠点(YMSC/MIE・YAC)の充実、ケースマネジメント体制の確立
こころしっとこセミナー開催件数	28件	45件	30件	・精神科医療取組の広報・啓発等
臨床・経営指標の追加・充実	充実	指標事業への参加	充実	・臨床・経営指標の追加等、データ分析
医業収支比率	73.9%	72.6%	74.7%	・精神科専門治療の充実 ・精神科特定入院料の算定 ・収支改善に向けた病院機能の検討
経常収支比率	101.0%	100.8%	101.3%	
アルコール依存症入院患者数(人/日)	37.0人	27.5人	30.0人	・病棟機能の明確化と病棟間の連携
認知症入院患者数(人/日)	40.0人	37.3人	40.0人	・飲酒運転違反者に対する診察 ・認知症相談、啓発研修の実施
1日平均入院患者数	300人	284.7人	295人	
1日平均外来患者数	280人	253.5人	270人	
措置鑑定対応件数	50件	47件	50件	・県障がい福祉課・保健所等との連携、院内救急体制整備
医師充足率	—	87.8%	100%	・研修や資格取得へのバックアップ体制を強化し医師に魅力ある病院づくりの取組
看護師充足率	—	100%	100%	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど魅力ある病院づくりへの取組
危機管理研修等参加率	—	86.1%	90.0%	・医療安全研修の複数回実施
倫理委員会(研修)開催数	2回	2回	2回	・職員の倫理意識向上のための研修の実施 ・職員表彰制度の継続実施
人材育成研修開催数	2回	2回	5回	・職員のスキルアップのための体系的な院内研修の実施
研修医・看護実習等受入延べ人数	2,200人	1,997人	2,200人	・院内受入体制の整備 ・研修プログラムの見直し、充実 ・看護大学との連携による臨床能力の向上
職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	62.0%	62.7%	—	・ワーク・ライフ・マネジメントの推進

病院名	一志病院						
ビジョン	安心してこの地域で生活し続けられる医療を提供し、全国の医療過疎を解決するモデルになります。						
経営方針	あらゆるニーズに対応するプライマリ・ケアを実践します。 プライマリ・ケアを担う人材を育成します。 プライマリ・ケアに関するエビデンスを創出します。 地域住民が信頼し、自慢できる病院をめざします。 職員の意欲と能力の向上に努めます。 継続的な医療の提供のために経営の健全化に取り組みます。						
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	H27 実績値		
顧客の視点	<p>全国的医療過疎を解決する病院のモデル</p> <p>プライマリ・ケアの実践</p> <p>地域住民が信頼し、自慢できる病院</p> <p>県内への医師等の定着</p>	プライマリ・ケアの実践 (全人的な医療サービスの提供)	かかりつけ患者の増加	家庭医療等外来受診者数(予防医療含む)	103.0人/日		
財務の視点		地域住民が信頼し自慢できる病院 (顧客満足度の高い医療の実践)	入院患者の増加	一般病棟入院患者数【病床稼働率】	36.1人【78.4%】		
		経営の健全化	県内医療過疎地域への貢献	へき地診療所等への支援	4回		
			患者及び家族の満足度向上	患者満足度(※)	83.7%		
内部プロセスの視点	<p>地域に最適な医療体制づくり</p> <p>地域医療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>包括的なケア</li> <li>多職種連携</li> <li>住民参画型</li> </ul> <p>総合診療医(家庭医)</p> <p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療を担う人材の教育</li> </ul> <p>研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究</li> </ul>	地域に最適な医療体制の構築	関係機関・地域住民との連携強化	地域に最適な医療の体制づくり参加機関数(者)	15機関(者)		
		総合診療医を中心とした地域医療(家庭医を中心とした地域医療)	在宅療養の充実	訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション等延べ患者数	3,657人		
			救急医療体制の確立	救急患者受入件数(救急車搬送患者を含む)	1,308人		
		学習と成長の視点	<p>職員の意欲と能力の向上</p> <p>風通しの良い職場づくり</p>	総合診療医を中心とした地域医療(家庭医を中心とした地域医療)	予防医療の実践	住民健診・がん検診受検者数	1,480人
				プライマリ・ケアを担う人材の育成(地域医療を担う人材の教育)	研修医・医学生の受入体制の充実	初期研修医・医学生受入人数	57人
				看護師等育成の支援	看護実習等受入率	100%	
プライマリ・ケアに関するエビデンスの創出(実践的かつ先進的な研究の実施)	家庭医療等に関する研究の実施	学会発表・論文発表件数	35件				
職員の意欲と能力の向上(業務改善に向けた取組)	医療従事者の能力向上	学会、研修、カンファレンス等の参加率	100%				
業務改善の推進	夢プロジェクト開催回数	12回					
風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	—				



H28 目標値	H28 実績値	アクションプラン	実績評価	次年度への課題
113.0 人/日	101.1 人/日	・総合診療医を中心とした外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談等を含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。	・住民健診等の予防医療を含め、内科患者数が減少し、目標を達成することができなかった。	・予防医療や訪問診療など、地域住民の幅広いニーズに対応し、患者数の確保に努める。
37.0人 【80.4%】	38.1人 【82.8%】	・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。 ・病床状況、平均在院日数等情報を関係セクションで共有し、目標達成に向けた対策を講ずる。	・地域の関係機関との連携を強化することで、前年度を上回る入院患者を受け入れることができた。	・地域の関係機関と一層連携し、引き続き、入院ニーズに対応していく必要がある。
5回	4回	・へき地医療拠点病院として、診療圏外に所在する診療所等へ代診医の派遣を行う。	・目標値には届かなかったものの、へき地医療支援機構からの依頼にはすべて応じ、鳥羽市の離島診療所へ代診医の派遣を行った。	・県内の医療過疎地域を支援できるよう、引き続き、代診医派遣等に努める。
96.6%	98.8%	・患者様アンケートを通じ、患者様のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の接遇能力の向上を図る。 ・ワーキング活動等を通じた業務改善に取り組む。	・職員によるリズム体操ビデオの放送などによる待ち時間解消対策や接遇研修に取り組むことにより、患者満足度を向上させることができた。	・患者満足度を向上させるため、引き続き、患者の皆さんの意見等を病院運営に生かしていく必要がある。
103.5%	110.0%	・入院、外来患者数増や単価増により、収益増を図る。 ・予防医療受診者の増により、収益増を図る。 ・請求漏れ対策や減点対策等に取り組む、収益増を図る。	・入院収益等の医業収益が増加したことなどから、経常収支は引き続き、黒字を確保することができた。 ・診療報酬の請求漏れや減点に対する情報を共有し、その防止を図ることができた。	・医療サービスの充実等により、入院・外来患者や住民健診等受診者の確保に努め、収益の増加につなげていくとともに、材料費や経費等の費用の縮減を図り、引き続き、黒字を維持する必要がある。
12回	12回	・材料費、経費等の節減に努めることにより、費用減を図る。	・経営勉強会を開催するなど職員一人ひとりのコスト意識を徹底し、特に診療材料費の縮減を図ることができた。	
46.5%	42.7%	・職員の経営意識醸成のため、経営勉強会を開催する。 ・収益増加、経費削減対策に関する職員提案を実施する。		
16機関 (者)	16機関 (者)	・「美杉・白山 保健医療福祉連携会議」の定期開催により、保健・医療・福祉の連携を図る。 ・「顔の見える会」の活動や講演会等の開催を通じ、地域住民との連携を図る。 ・地域行事等への参加を推奨し、地域貢献に努める。	・地域の保健・医療・福祉の多職種による事例検討会やシンポジウムの開催などを通じて、地域住民や関係者の意識向上や一体感の醸成を図った。	・地域において取り組んできた多職種が連携した活動を定着化させるとともに、地域住民の一層の参画を促進していく必要がある。
3,400人	4,195人	・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、訪問栄養指導の単価増・件数増等を図る。	・保健・福祉機関等と連携するなどし、前年度実績を上回るサービスを提供することができた。	・引き続き、在宅療養支援のニーズに応えていく必要がある。
1,000人	1,348人	・宿日直体制を維持し救急患者を受け入れる。 ・引き続き、救急隊との合同勉強会や救急ホットラインの活用等により連携強化に努める。	・救急ホットラインや外来ホットラインを活用し、前年度を上回る救急患者を受け入れることができた。	・引き続き、24時間365日の救急患者受入体制を維持するとともに、救急隊との合同勉強会等を通じて、搬送技術の向上に努めていく。
1,300人	1,377人	・住民健診、がん検診等をPRするとともに積極的に実施する。 ・健康教室等を開催し、健康管理に対する意識啓発を図る。	・健康教室等を定期的に開催し、地域住民の皆さんの健康管理に対する意識の向上を通じて、目標を上回る住民健診等を実施することができた。	・引き続き、健康教室等の開催を通じて予防医療を啓発するとともに、住民健診等を実施する体制を維持する必要がある。
49人	68人	・指導医による人材育成体制を強化し、研修医、医学生を積極的に受け入れる。	・総合診療医育成拠点として、初期研修医9名、医学生59名を受け入れ、前年度の受入数を上回る事ができた。	・多くの研修医等を育成できるよう指導医を確保し、実践的で魅力的な研修を行っていく必要がある。
100%	100%	・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内実習等を通じ、人材育成の支援を行う。	・看護師等の養成機関と連携して、実習の依頼に100%対応することができた。	・実習生を積極的に受け入れ、実践的な研修を行うとともに、指導者の育成に努めていく。
20件	36件	・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。	・職員の研究に対する意欲の醸成に努め、前年度を上回る件数の学会発表等を行った。	・引き続き、研究に対する意欲の醸成に努めるとともに、研究に取り組むしやすい職場環境を維持する必要がある。
100%	100%	・学会、研修等に参加しやすい職場環境を整える。 ・多職種が参加するカンファレンス等を開催する。	・全職員が学会や研修会等に一度は参加することができた。	・引き続き、学会や研修会等に参加しやすい職場環境づくりに取り組んでいく必要がある。
12回	12回	・一志病院のビジョン達成のため「夢プロジェクト」の活動を通じて、職員の意欲と能力を向上させ、様々な業務改善を積極的に推進する。	・夢プロジェクト内に設けられた各戦略グループの取組状況の報告、確認等を行いつつ、業務改善を積極的に行った。	・引き続き、夢プロジェクトの活動に参加しやすい職場環境づくりに取り組んでいく必要がある。
68.0%	59.2%	・ワーク・ライフ・マネジメントを推進する。 ・職員のモチベーションの維持・向上に努める。	・夢プロジェクトの活動等を通じ、対話の促進やモチベーションの向上を図ることができた。	・すべての職員が様々な取組の充実や改善に貢献することを実感し、モチベーションをさらに向上させていく必要がある。

※H27年度までは、「当院を親しい友人等へ紹介しますか」という設問に対する肯定的な回答割合により算出していましたが、H28年度からは、「当院の診療に満足していますか」との設問に対する肯定的な回答割合により算出しています。

病院名	一志病院		
ビジョン	安心してこの地域で生活し続けられる医療を提供し、全国の医療過疎を解決する病院のモデルになります。		
経営方針	あらゆるニーズに対応するプライマリ・ケアを実践します。 プライマリ・ケアを担う人材を育成します。 プライマリ・ケアに関するエビデンスを創出します。 県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院をめざします。 職員の意欲と能力の向上に努めます。 継続的な医療の提供のために経営の健全化に取り組みます。		
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の視点		プライマリ・ケアの実践 (全人的な医療サービスの提供)	かかりつけ患者の増加 入院患者の増加
		県民の皆さんが信頼し自慢できる病院 (顧客満足度の高い医療の実践)	県内医療過疎地域への貢献 患者及び家族の満足度向上
財務の視点		経営の健全化	収支の改善 収益の確保
内部プロセスの視点		地域に最適な医療体制の構築	医師の充足 看護師の充足 関係機関・地域住民との連携強化
		総合診療医を中心とした地域医療 (家庭医を中心とした地域医療)	在宅療養の充実 救急医療体制の確立
		プライマリ・ケアを担う人材の育成 (地域医療を担う人材の教育)	予防医療の実践 研修医・医学生の受入体制の充実 看護師等育成の支援
		プライマリ・ケアに関するエビデンスの創出 (実践的かつ先進的な研究の実施)	プライマリ・ケアセンターへの支援 家庭医療等に関する研究の実施
学習と成長の視点		職員の意欲と能力の向上 (業務改善に向けた取組)	医療従事者の能力向上 危機管理対策の向上
		風通しの良い職場づくり	業務改善の推進 職員満足度の向上

業績評価指標	H28 目標値	H28 実績値	H29 目標値	アクションプラン
1日平均外来患者数	—	85.1人	88.0人	・総合診療医を中心とした外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。
1日平均入院患者数 【病床利用率】	37.0人 【80.4%】	38.1人 【82.8%】	37.0人 【80.4%】	・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携に努め、紹介患者数の増加を図る。 ・病床状況、平均在院日数等情報を関係セクションで共有し、目標達成に向けた対策を講ずる。
医療過疎地域等への支援 件数	—	7件	7件	・へき地医療拠点病院として、へき地診療所等へ代診医の派遣を行う。
患者満足度	96.6%	98.8%	96.6%	・患者様アンケートを通じ患者様のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の接遇能力の向上を図る。 ・ワーキング活動等を通じた業務改善に取り組む。
経常収支比率	103.5%	110.0%	104.2%	・入院、外来患者数増や単価増により収益増を図る。 ・予防医療受診者の増により収益増を図る。
医業収支比率	—	72.7%	68.1%	・請求漏れ対策や減点対策等に取り組む、収益増を図る。 ・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。 ・収益増加、経費節減策の提案・実行に取り組む。
診療報酬検討会開催回数	12回	12回	12回	
医師充足率	—	95.6%	100%	・総合診療医の育成拠点としての研修環境を整備するなど勤務医にとって魅力のある病院づくりに取り組む。
看護師充足率	—	100%	100%	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど看護師にとって魅力のある病院づくりに取り組む。
多職種連携による取組件数	—	20件	30件	・地域ケア会議の定期開催により、保健・医療・福祉の連携を図る。 ・「顔の見える会」の活動や講演会等の開催を通じ、地域住民との連携を図る。 ・地域行事等へのボランティア参加を推奨し、地域貢献に努める。
訪問診療、訪問看護等延べ 患者数	3,400人	4,195人	3,700人	・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、訪問栄養指導の単価増・件数増等を図る。
救急患者受入件数 (救急車搬送患者を含む)	1,000人	1,348人	1,000人	・宿日直体制を維持し救急患者を受け入れる。 ・救急隊との合同勉強会や救急ホットラインの活用等により、引き続き、連携に努める。
住民健診、人間ドック、がん 検診受検者数	—	1,486件	1,400人	・住民健診、人間ドック、がん検診をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等を開催し、健康管理に対する意識啓発を図る。
初期研修医・医学生受入延 べ人数	—	673人	600人	・指導医による人材育成体制を強化し、研修医、医学生を積極的に受け入れる。
看護実習生等受入延べ人 数	—	303人	330人	・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内実習等を通じ人材育成の支援を行う。
プライマリ・ケア研修会開催 件数	—	2件	3件	・当院に設置された三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア研修会の開催を支援する。
学会発表・論文発表件数	20件	36件	30件	・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。
学会、研修、カンファレンス 等の参加率	100%	100%	100%	・学会、研修等に参加しやすい職場環境を整える。 ・多職種が参加するカンファレンス等を開催する。
危機管理研修等参加率	—	78.2%	90%	・職員の医療安全研修、感染管理研修等への積極的な参加を促す。
夢プロジェクト開催回数	12回	12回	12回	・一志病院のビジョン達成のため、夢プロジェクトの活動を通じて、職員の意欲と能力を向上させ、様々な業務改善を積極的に推進する。
職員アンケートの「満足度」 の設問での肯定的な回答 割合	68.0%	59.2%	—	・ワーク・ライフ・マネジメントを推進する。 ・職員のモチベーションの維持・向上に努める。

平成29年三重県議会定例会  
予算決算常任委員会

決算審査意見に対する考え方について

平成29年10月2日  
病院事業庁

項目	頁
(1) 平成 28 年度決算と新たな中期経営計画の推進について	1
(1)－ア 平成 28 年度決算と新たな中期経営計画の推進について (こころの医療センター)	2
(1)－イ 平成 28 年度決算と新たな中期経営計画の推進について (一志病院)	3
(1)－ウ 平成 28 年度決算と新たな中期経営計画の推進について (志摩病院)	4
(2) 未収金の回収と発生防止について	5

項目 (1)	平成 28 年度決算と新たな中期経営計画の推進について	意見書 2 頁
意見	<p>平成 28 年度病院事業会計の経常収支及び総収支は、いずれも約 1 億 1,177 万円の黒字となっており、27 年度決算に比べてそれぞれ約 3,958 万円、約 3,683 万円増加している。</p> <p>しかしながら、医業収支は赤字であり、また、当年度未処理欠損金（累積欠損金）は、前年度に比べ改善したものの、約 92 億円と多額であることから、引き続き、経営の健全化に努められたい。</p> <p>また、三重県地域医療構想等をふまえた、新たな中期経営計画（平成 29～32 年度）が策定されたので、各病院がそれぞれの役割・機能を十分に発揮できるよう、計画を着実に推進されたい。</p>	

## 1 経営の健全化について

病院事業会計においては、平成 16 年度から導入された新医師臨床研修制度による地域の医師不足に伴う各病院の診療体制の縮小や、診療報酬のマイナス改定などによる影響を受け、経営状況が悪化したことから、多額の累積欠損金が発生しています。

こうした中で、現在の医療の方向性として、入院診療から関係機関等の連携による地域での包括的な支援へと転換が進められており、各病院が病床稼働率を向上させることは難しい状況にありますが、平成 28 年度決算においては、医業収支は赤字ではあるものの、経営努力により直営 2 病院とも純利益を計上することができました。

今後も引き続き、一層の患者確保や費用削減に取り組み、経営の健全化に努めてまいります。

## 2 中期経営計画の着実な推進について

中期経営計画の着実な推進を図るため、計画期間中の各年度の目標値を設定し、業務マネジメントツールである「バランス・スコアカード（BSC）」により進捗管理を行っています。

また、計画に掲げた取組については、毎月、各病院との会議を通じて、取組状況や目標値に対する達成状況を適宜把握するとともに、随時、具体的な取組の検討・協議を行っているところであり、引き続き各病院がそれぞれの役割・機能を十分に発揮できるよう、計画の着実な推進に努めてまいります。

項目 (1) ーア	平成 28 年度決算と新たな中期経営計画の推進について (こころの医療センター)	意見書 4 頁
意見	<p>経常収支、総収支ともに約 2,569 万円の黒字となっているものの、前年度に比べそれぞれ約 2,432 万円、約 2,568 万円減少している。これは、医業収益が減少したことなどによるものである。</p> <p>このため、入院・外来患者の確保はもとより、適切な病床運用による稼働率と診療単価の向上などにより、医業収益の増加に努められたい。</p> <p>また、「入院医療中心から地域生活支援中心へ」という精神科医療の方向性をふまえ、精神科医療の中核病院としての役割を担うとともに、地域生活支援施設の運用等による外来患者に対する支援を図るなど、多様な医療ニーズに応じたサービスの提供に努められたい。</p>	

## 1 医業収益の増加について

精神科医療における「入院医療中心から地域生活支援中心へ」という方向性の中で、こころの医療センターにおいても、長期入院患者の社会復帰の促進を図ってきていることから、入院患者を確保することは難しい状況にあります。

このような状況の中、平成 28 年度においては、救急患者の積極的な受入れや病診連携の推進、また、訪問看護の積極的な推進などに取り組み、医業収益の確保に努めました。

今後も引き続き、患者の症状に応じた適切な病床運用の推進により病床稼働率や診療単価の向上を図るとともに、積極的な訪問看護の推進や平成 29 年 3 月に開設した地域生活支援施設を活用したデイケアの充実により外来患者数を確保するなど、医業収益の増加に努めてまいります。

## 2 多様な医療ニーズに応じたサービスの提供について

県内の精神科医療における中核病院として、精神科救急・急性期医療等の政策的医療や認知症治療、アルコール依存症治療、精神科早期介入などの専門的医療を提供するとともに、研修医や看護実習生等を積極的に受け入れるなど、県内の精神科医療人材の育成にも取り組んでいます。

また、「入院医療中心から地域生活支援中心へ」という方向性の中で、入院診療においては、入院時から退院を視野に入れた多職種による支援を行いながら、適切な治療を進め、早期の退院を図っています。外来診療においては、患者の生活能力の向上を図るとともに、在宅での生活において継続して治療が行えるよう、デイケアプログラムや訪問看護の充実など地域生活支援に向けた取組を積極的に進め、入院から退院、在宅まで切れ目のない治療を提供しています。

今後も引き続き、これらの取組を推進し、多様な医療ニーズに応じたサービスの提供に努めてまいります。

項目 (1) ーイ	平成 28 年度決算と新たな中期経営計画の推進について (一志病院)	意見書 4 頁
意見	<p>経常収支、総収支とも約 8,830 万円の黒字となっており、前年度に比べそれぞれ約 6,085 万円、約 6,103 万円増加している。これは、入院収益や外来収益の増加に加え、津市からの受託料が増加したことなどによるものである。</p> <p>引き続き、入院・外来患者や健康診断等の受診者の確保に努め、収益の増加につなげるとともに、材料費や経費の費用縮減を図り、健全経営に努められたい。</p> <p>また、過疎化、高齢化が進み、住民の医療ニーズがより一層高まっている中、幅広い臨床能力を有する総合診療医（家庭医）の育成拠点施設としての役割を果たすとともに、地域の予防医療や在宅療養支援に取り組むなど、引き続き、地域に最適な医療サービスの安定的な提供に努められたい。</p>	

## 1 経営の健全化について

医療・介護・予防等の多職種による連携会議等の開催など、地域の診療所、消防機関及び福祉施設との連携等により、入院患者及び外来患者の確保に取り組むとともに、住民向けの健康教室、出前講座等を通じて予防医療に対する意識の向上を図りながら、住民健診、人間ドック及びがん検診の受診者数確保にも積極的に取り組み、収益の増加につながるよう努めています。

また、職員一人ひとりのコスト意識を徹底し、材料費、経費等の費用の縮減にも引き続き取り組んでいるところです。

今後も、収益の増加と費用の縮減を図り、一層の経営健全化を進めてまいります。

## 2 地域に最適な医療サービスの安定的な提供について

高齢化が進み、医療資源が十分でない津市白山・美杉地域においては、幅広い臨床能力を有する総合診療医（家庭医）による診療並びに予防医療及び在宅療養支援の取組が重要となっています。

このことから、三重大学と密接に連携を図りながら積極的に研修医や医学生を受け入れるなど、総合診療医（家庭医）の育成拠点施設としての役割を果たすとともに、当該地域における予防医療に対する意識の向上及び住民健診等受診者の確保並びに通院が困難な患者に対する訪問診療、訪問看護等による在宅療養支援に取り組んでいるところです。

今後も、総合診療医（家庭医）の育成に積極的に取り組むとともに、地域に最適な医療サービスの安定的な提供に努めてまいります。



項目 (1) ーウ	平成 28 年度決算と新たな中期経営計画の推進について (志摩病院)	意見書 4 頁
意見	<p>志摩病院では、平成 24 年度以降、指定管理者制度を導入している。</p> <p>平成 28 年 2 月から伊勢志摩区域で不足している回復期機能を確保するための地域包括ケア病棟を稼働している。</p> <p>また、内科系においては、平成 28 年 5 月から 24 時間 365 日の救急受入態勢を実現したところであるが、外科系における救急受入態勢や、産婦人科など一部診療科における常勤医師の配置などが進んでいない。</p> <p>このような状況をふまえ、指定管理者と十分な連携を図り、常勤医師の配置やさらなる救急受入態勢の拡充など診療機能の充実強化に取り組むとともに、回復期機能も有する地域の中核病院としての役割を果たすよう努められたい。</p>	

## 1 診療機能の充実について

志摩病院の診療機能については、指定管理者制度導入後、常勤医師の確保に努め、入院診療体制や救急医療体制などの段階的な回復を図るとともに、地域医療構想において、伊勢志摩区域については回復期機能の一層の充実が求められている中で、回復期機能を有する地域包括ケア病棟を平成 28 年 10 月に拡充するなど、医療を取り巻く環境の変化にも的確に対応しているところです。

こうした中で、指定管理者とともに三重大学への継続した派遣要請を行ってきた結果、平成 29 年 7 月から整形外科の常勤医師 1 名が増員され、診療機能の充実が図られたところです。しかしながら、全国的な医師不足の影響等もあり、常勤医師の配置が進んでいない診療科もあることから、指定管理者が運営する他病院からの支援や複数の非常勤医師により、各診療科の機能確保に努めているところです。

今後も引き続き、指定管理者に医師配置の充実を要請していくとともに、病院事業庁としても、三重大学への派遣要請を行うなど、指定管理者と十分な連携を図り、地域の中核病院としての役割を果たせるよう、診療機能の充実強化に取り組んでまいります。

項目 (2)	未収金の回収と発生防止について	意見書 7頁
意見	<p>平成 28 年度末における病院事業庁全体の診療費自己負担金の未収金（過年度収入未済額）は、前年度と比べて約 118 万円減少し、約 7,683 万円となっている。</p> <p>未収金の回収については、裁判所を通じての支払督促、弁護士法人への回収委託等を行っており、平成 28 年度中に約 460 万円を回収しているところであるが、引き続き、回収に向けての取組を進められたい。</p> <p>また、平成 28 年度においては、約 416 万円の未収金が新たに発生しているため、早期の回収に努めるとともに、未収金発生防止に向けた取組を継続されたい。</p>	

## 1 未収金の回収と発生防止について

過年度医業未収金の縮減に向けては、発生防止と回収の両面から対策を進めています。

今後も、各病院からの債務者への督促・催告に加え、法的措置や回収業務委託も活用して対応するなど、効果的な対策を推進してまいります。

なお、発生防止及び発生後の回収対策の主な取組は、次のとおりです。

### (1) 発生防止対策

- ①入院時の説明の際に、入院費用の説明書に加えて高額療養費制度に関する説明書等を併せて渡し、診療費用の支払に関する早期相談の促進に努めています。
- ②診療時や相談対応時など様々な機会を捉えて、公費負担制度の説明及び申請のサポートを行っています。
- ③病棟、会計、地域連携室等において、患者の支払いに関する情報共有を徹底しながら、早期の対応（面談、早期支払いの働きかけ等）を行うよう努めています。

### (2) 回収対策

- ①文書及び電話等による督促・催告を、本人に加えて連帯保証人等に対しても継続的に行っています。
- ②病院からの督促等にも応じず、理由なく支払わない者については、裁判所が債権者に代わって債務者へ請求を行う制度（支払督促）の活用や、給与の差押などの強制執行を行っています。
- ③県独自の対応で回収が困難なものについては、弁護士法人へ回収業務を委託しています。